

だれもが住みやすい稗田の町 を考えよう

～歩行者移動支援プロジェクトに参加して～

神戸市立稗田小学校 5年福祉学習

1. 子供たちの活動状況

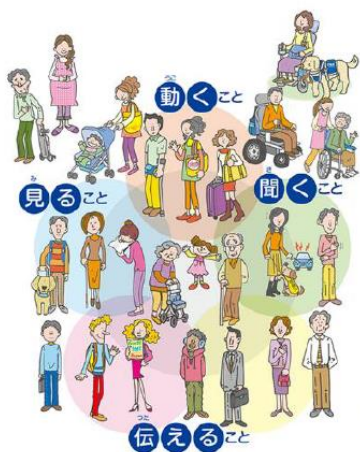
2. 活動を終えて

1. 子供たちの活動状況

活動の流れ	活動内容
導入(問題提起)	<ul style="list-style-type: none">・ 障害を持っている人の話を聞き、生活しにくさやバリアフリーについて知る。・ 自分たちが住んでいる稗田の街は、どうなのかを考える。
実地調査	<ul style="list-style-type: none">・ 自分たちの住んでいる稗田の街のバリアフリーを調査する。
結果整理、まとめ	<ul style="list-style-type: none">・ ツールに、稗田の街のバリアフリー情報を整理する。・ 障害を持った人が、稗田の街に来ても困らないようにする方法やもっと稗田の街が住みよくなるためにどうすればよいか考える。
発表(発信)	<ul style="list-style-type: none">・ それぞれのグループの結果、まとめを交流。・ ツールを使って、全国に発信。・ 100周年お祝いする会で、地域に発信。

導入(問題提起)

1. 事前研修 (1) バリアフリーについて ① まちにはさまざまな人がいます。



左利き



ドアや電車の駅改札などは
右利き用に作られています

外国人



日本語が分からない外国
人などがいます

高齢者



元気に見えても、高齢者や妊婦、赤ちゃん連れの方などは、
歩き難かったりして、まわりのサポートを必要としています

妊婦



マタニティマーク

出典：交通エコロジー・モビリティ財団

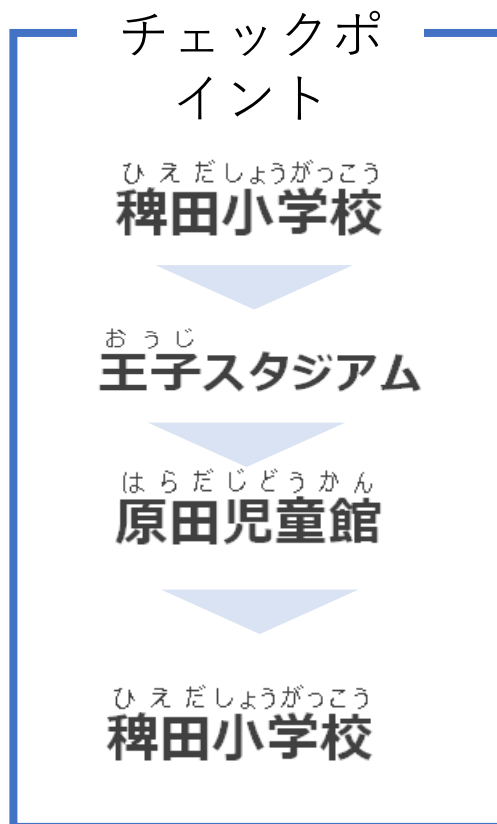
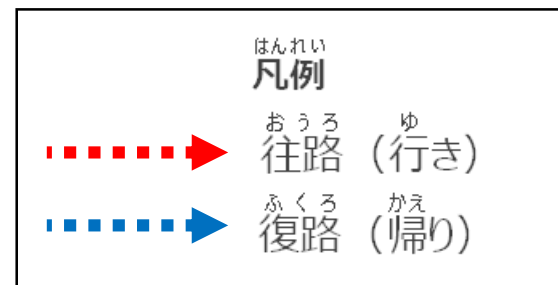
出典：心のバリアフリーノート（小学生用）（文部科学省）



実地調査

調査エリア

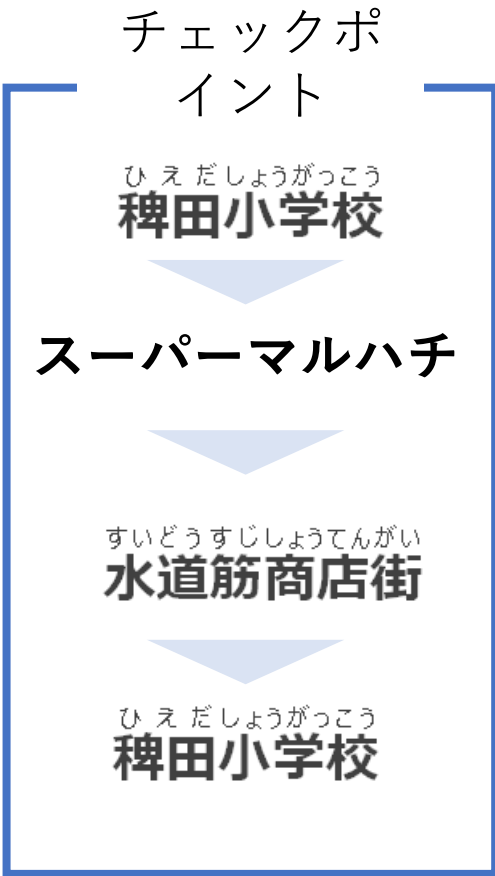
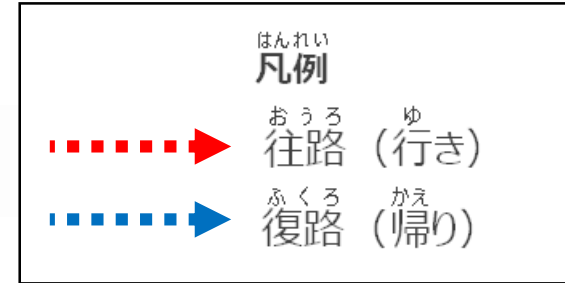
おうじ エリア 1 : 王子スタジアム



© OpenStreetMapcontributors

すいどうすじ

エリア3 : 水道筋エリア



結果整理、まとめ



発表（発信）

①アプリ作成による発信

②模造紙を使って、学年交流



100周年お祝いする会で、地域へパワーポイントを使って、発信

2. 活動を終えて

<良かった点>

○実際に車いすを利用している人の話を聞いたこと。

→ 実際の話は、子供たちの心に響き、新しい視点を得られた。

○自分たちの街をいつもと違う視点で実際に歩いて調査を行ったこと。

→ 新しい視点で歩くことで、普段の生活の中の不便さを感じることができた。

○自分たちの調査したことが、形となって発信されたこと。

→ 責任感と子供たちのモチベーションのUPにつながった。

○人的サポートがあったこと。

→ 調査活動やパソコンの利用などサポートがあっただけだった。

<改善点>

○内容面(難易度)

- ①機器操作面…初めて行うことによる戸惑い
- ②文言…使いなれない言葉

○時間面

- ①年間計画…急遽入れたことによる時間的な余裕の無さ
- ②見通し…初めてによる時間的な見通しの難しさ

○事後学習

- アプリ作成後、どうなったのか、活用されているのかを知りたい。